

2025年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52561	教育実習Ⅰ Teaching Practice	井手 裕子			1	選択	1年前期
科目の概要							
この実習は、愛知学泉短期大学附属幼稚園・愛知学泉大学附属幼稚園・愛知学泉大学附属桜井幼稚園で、見学・観察と参加を中心に5日間行う①⑥。現場実習を通して、幼稚園教員の役割、子ども達の様子、保育現場の環境構成等について、理解することを目的としている②③。これまでに学んだ学習内容を各自が再認識した上で、取り組むことが重要となるが、その際に自分の思い込みだけでなく、現場で見たり聞いたりしたことを柔軟に取り入れ、自らの経験としてふくらませる姿勢が望まれる①④⑥。これらの取り組みを通して、幼児教育および保育の現場で活躍できるための専門的知識・技能を修得し②、それぞれの現場で協調性を持って柔軟に活用する能力を身につける①②③④⑥。以上は、ディプロマポリシーに相当する。							
学修内容			到達目標				
① 現場実習を通して、幼稚園教員の役割、子ども達の様子、保育現場の環境構成などに実際に触れ、理解する。 ② これまでに学んだ学習内容を各自が再認識した上で、保育現場で実践する。 ③ 現場で見たり聴いたりしたことを柔軟に取り入れ、自らの経験として獲得する。			① 保育現場の概況を説明することができる。①②③ ② 学んだことを保育実践に活かすことができる。①②③④⑥ ③ 短期間ではあるが、経験したことを取り入れて行動することができる。①②③④⑥				
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	言われなくても積極的に動くようにする。					
	働きかけ力						
	実行力	子どもたちの前で、絵本や紙芝居を読んだり、手遊びをしたりしてみる。					
考え抜く力	課題発見力	保育に携わる上での自らの課題を見つける。					
	計画力						
	創造力	手遊び等、その場にに合わせて、変化させてみる。					
チームで働く力	発信力	子どもたちに伝わるように話すようにする。					
	傾聴力	先生方からの助言を、きちんと聞く。					
	柔軟性						
	状況把握力	幼児たちの状況を的確につかむ。					
	規律性	遅刻、無断欠席をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。					
	ストレスコントロール力						
テキスト及び参考文献							
テキスト：「学外実習の手引き」（愛知学泉短期大学） 参考文献：なし							
他科目との関連、資格との関連							
他科目との関連：教育実習事前事後指導 教育実習Ⅱ 保育実習Ⅰ・Ⅱ 資格との関連：幼稚園教諭二種、准学校心理士							
学修上の助言			受講生とのルール				
初めての实習で不安があると思うが、できるだけ他多くの経験をして貴重な機会を生かせるようにする。			実習に対するしっかりした心構えと知識を持ち、積極的に取り組んでほしい。				

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①					
				②					
				③					
	平常評価	小テスト		0	①				
					②				
					③				
		レポート		0	①				
					②				
					③				
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）			90	①	✓			実習園からの評価票及び実習記録の記入状況 （総合評価：S=90, A=80, B=70, C=60, D=50）	
				②	✓				
				③	✓				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）		10	①	✓			実習での出席表及び実習園からの評価票を参考にする。 (主体性)言われなくても積極的に動いたか。 (実行力)子どもたちの前で、絵本や紙芝居を読んだり、手遊びをしたりしてみたか。 (創造力)手遊び等、その場に合わせて、変化させてみたか。 (発信力)子どもたちに伝わるように話すどりをよくしたか。 (傾聴力)先生方からの助言を、きちんと聞くようにしたか。 (課題発見力)保育に携わる上での自らの課題を見つけられたか。 (規律性)遅刻、無断欠席など学習意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。欠席した場合は欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。	
				②	✓				
				③	✓				
総合評価割合			100						

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
園から提出される出席簿・実習記録・評価票・実習反省会を参考に評価する。(評価内容S、A)	園から提出される出席簿・実習記録・評価票・実習反省会を参考に評価する。(評価内容B、C)

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1週 目前半	教育実習（観察実習） 実習一日目は、必要な書類を提出し、実習園の先生から実習に臨むにあたっての心構え等について、話していただく。 実習期間に入って最初のうちは、観察の上、子どもの様子や保育の流れを捉えることが中心となるが、積極的に子どもの中に入り、保育者の考えを尋ね、早めの状況把握に努めることが大切である。 掃除等、園児を迎えるにあたって必要な環境整備には、初日から積極的に取り組み、その重要性を理解する。	学外 取り組み姿勢を評価し、フィードバックする。	丁寧に書類を書ける。 実習の目標を明確にした上で、文章としてまとめることができる。 書類や実習記録をきちんと提出できる。 積極的に環境整備に参加できる。	（予習）事前訪問指導の内容をきちんとまとめて記入しておく。実習園の概況等、実習の目標を実習記録に書く。 掃除道具の使い方に慣れておく。 （復習）実習記録を記入する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
1週 後半	教育実習（参加実習） 様子がわかってきたら、保育者の指導を受けながら、保育者の補助的役割を引き受けるようにして、積極的に実習を行う。 可能であれば、手遊び、紙芝居や絵本の読み聞かせ等、園児の前に立ってやってみる経験をさせてもらい、自分の課題を見つける。 反省・総括	学外	積極的に園児の前に立つ経験をするようにする。 自分の課題を見つけることができる。	（予習）絵本の読み聞かせ、手遊びの練習をしておく。園で用いられている歌の伴奏が弾けるようにしておく。 （復習）実習記録を記入する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
総 括・ 反省	総括・反省	学外	実習後、保育をしてみた結果について評価を受け、反省をまとめる。 保育が上手く出来たかということ以上に、この実習から何を学んだか明確にする。	（復習）実習を振り返り総括を完成しておく。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2025年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52562	教育実習Ⅱ Teaching PracticeⅡ	服部 壮一郎			3	選択	2年後期
科目の概要							
2年の秋に行う幼稚園での学外実習は、最後の学外実習として3週間にわたって行っている。この科目は、教育実習Ⅰと同様に、現場実習を通して、幼稚園教諭の役割、子ども達の動きの実践的理解、保育現場の環境構成に触れ、修得した知識や経験の過程で課題を発見し、課題解決できることが目的である。また、教育実習Ⅰと異なる点として、実際に指導案を立てて研究授業を行うことにある。これまでに学んできたことを実践の場で、自らの試みを含めて確認することになるが、自分自身の理解の到達点や保育者としての特性などを見る貴重な機会として捉えていくことが望まれる。実習を行うにあたって、事前指導などを通して実習先の希望など多くの書類の提出を求められるが、その際の提出期限は厳守する。実習に先立って行う事前指導をきちんと受けない学生は、この科目が受講できないことになるので注意すること。これらの取り組みを通して、幼児教育および保育の現場で活躍するための専門的知識・技能を修得し、それぞれの現場で協調性を持って柔軟に活用する能力を身につける（ディプロマ・ポリシー④）。							
学修内容				到達目標			
① 既習の教科や教育実習Ⅰの幼稚園実習の経験を踏まえ、子どもの観察や関わりの視点を明確にする。 ② 教育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について学ぶ。 ③ 現場実習を通して、幼稚園教諭の役割、子ども達の動きの実践的理解、教育現場の環境構成などに触れる。 ④ 幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について学ぶ。 ⑤ 幼稚園教諭としての自己課題を見つける。				① 幼稚園実習の理解を深め、子どもの観察や関わりの視点を明確にすることができる（ディプロマ・ポリシー②③④）。 ② 幼稚園教育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組むことができる（ディプロマ・ポリシー②③④）。 ③ 幼稚園教諭の役割、子ども達の動きの実践的理解、教育現場の環境構成の理解を深め、説明することができる（ディプロマ・ポリシー②③④）。 ④ 幼稚園教諭の業務内容や職業倫理についての理解を深め、行動や態度で示すことができる（ディプロマ・ポリシー①③⑥）。 ⑤ 幼稚園教諭としての自己課題を明確化する（ディプロマ・ポリシー①③⑥）。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	言われてからではなく、率先して行動することができる。					
	働きかけ力	子どもに関わる際、現場の保育者に質問する際等、恐れず関わるることができる。					
	実行力	部分・責任実習、記録等の困難な課題にも粘り強く取り組むことができる。記録や書類等の提出期限を遵守することができる。					
考え抜く力	課題発見力	対象のニーズを把握し問題解決の手だてを把握したり、自己の不足を認識したりすることができる。					
	計画力	日々の保育を想定して1日の活動を計画することができる。また、年齢帯・季節・環境等の要因を考慮した日案の作成ができる。					
	創造力	事例や教科書の解説通りではなく、それを土台とした自らの新しい発想を通して問題解決方法を考案したり、支援計画を考えたりすることができる。					
チームで働く力	発信力	子どもや現場の保育者に対し、自分の意思を的確に伝えることができる。					
	傾聴力	相手の発した言葉を自分の立場に置き換えて、意図を汲み取りながら聴くことができる。					
	柔軟性	一つのことにだけに目を向けず、全体を見ることができる。また、臨機応変な対応を目指すことができる。					
	状況把握力	対象や自己の置かれた状況を正確に把握することができる。					
	規律性	本人の責に帰すような遅刻・欠席等がないようにすることができる。現場のルールに従うことができる。欠席した場合は欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。					
	ストレスコントロール力	困難な状況に陥っても、他者と相談する等して乗り切ることができる。					
テキスト及び参考文献							
テキスト：「学外実習の手引き」（愛知学泉短期大学） ※プリントは適宜配布する。							
他科目との関連、資格との関連							
他科目との関連：教育実習Ⅰ、保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ、教育実習事前事後指導 資格との関連：幼稚園教諭二種免許、准学校心理士							
学修上の助言				受講生とのルール			
・1年次の学外実習を振り返り自分の弱点や実習の目標を明らかにしておくこと。 ・実習反省会での他の学生の報告や意見を参考に事前に学ぶべきことを調べておくこと。				・実習を行うにあたって、実習先の希望等、多くの書類の提出を求めるがその際の提出期限は厳守する。 ・実習に先立って行う事前指導をきちんと受けない学生は、この科目が受験できないことになるので注意する。			

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①					
				②					
				③					
				④					
				⑤					
	平常評価	小テスト	0	①					
				②					
				③					
				④					
				⑤					
		レポート	0	①					
				②					
				③					
				④					
				⑤					
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	90	①	✓				出席状況・園での評価票で評価する。 （総合評価：S=90, A=80, B=70, C=60, D=50）
				②	✓				
				③	✓				
				④	✓				
				⑤	✓				
社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			出席状況・園での評価票で評価する。 主体性：言われてからでなく、率先して行動することができる。 実行力：部分・責任実習、記録等の困難な課題にも粘り強く取り組み、記録や書類等の提出期限を守ることができる。 課題発見力：対象のニーズを把握し問題解決の手だてを把握したり、自己の不足を認識したりすることができる。 創造力：事例や教科書の解説通りではなく、それを土台とした自らの新しい発想を通して問題解決方法を考案したり、支援計画を考えたりすることができる。 発信力：子どもや現場の保育者に対し、自分の意思を的確に伝えることができる。 傾聴力：相手の発した言葉を自分の立場に置き換え意図を読み取りながら聴くことができる。 規律性：本人の責に帰すような遅刻・欠席等がないようにできる。現場のルールに従うことができる。			
		②	✓						
		③	✓						
		④	✓						
		⑤	✓						
学修行動				①	✓				
				②	✓				
				③	✓				
				④	✓				
				⑤	✓				
総合評価割合			100						

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
・園から提出される出席簿・実習記録・評価票・実習反省会を参考に評価する。（評価内容S、A） 1. 子どもの発達を理解することに熱心で、積極的だった。 2. 実習園の内容と特徴をよく理解した。 3. 指導計画・実習記録について学習し、よく理解した。 4. 保育の方法・内容について、よく理解した。 5. 実習態度は好ましく、保育者としての資質は豊かである。	・園から提出される出席簿・実習記録・評価票・実習反省会を参考に評価する。（評価内容B、C） 1. 子どもの発達を理解することに熱心だった。 2. 実習園の内容と特徴を理解した。 3. 指導計画・実習記録について理解した。 4. 保育の方法・内容について理解している。 5. 実習態度は好ましく、保育者としての資質がある。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1～3	教育実習（観察実習） 実習期間に入って最初のうちは、観察の上、子どもの様子や1日の流れを捉えることが中心となる。 積極的に子どもの中に入り、保育者の考えを尋ね、早めの状況把握に努めることが必要となる。	学外 PCによる記録等の作成	積極的に子どもの中に入り、保育者の考えを尋ね、状況把握に努めることができる。	（復習）担当者との反省会や記録内容の振り返り。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
1～3	教育実習（参加実習） 様子がわかってきたら、保育者の指導を受けながら、保育者の補助的役割を取るようになっていく。	学外 PCによる記録等の作成	保育者の補助的役割を取ることができる。	（復習）担当者との反省会や記録内容の振り返り。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
1～3	教育実習（責任実習） 実際に指導案（時案ないし日案）を立てて、保育者の指導をあおぎ、その案を検討する。その指導案のイメージを自分の中に持って、実際の保育に活かしていく。	学外 実習巡回を行い、フィードバックする。 PCによる記録等の作成	実際に指導案（時案ないし日案）を立てて、保育者の指導をあおぎ、その案を検討できる。	（復習）担当者との反省会や記録内容の振り返り。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
反省・総括	反省・総括 実際に保育をしてみた結果について評価を受け、反省をまとめることになるが、このとき大事なことは、指導が上手くいったかどうかということ以上に、その体験から何を学んだかである。	学外 PCによる記録等の作成	3週間の実習で何を学んだか振り返りと課題がわかる。	（復習）担当者との反省会や記録内容の振り返り。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力